

視 察 ・ 研 修 等 報 告 書

令和2年11月24日

北上市議会 北上まほろばクラブ

代表 三宅 靖

次の 視察 ・ 研修 ・ **活動** について結果を報告します。

期間（期日）	令和2年11月21日（土） 10:00～12:00
視 察 先 視 察 内 容 ま た は 研 修 事 項	「市議とママのお話会」（子育て世代との意見交換会） 於：北上さくらホール キセキレイの間
参 加 者	北上まほろばクラブ：梅木 忍、三宅 靖、平野 明紀 AsMama 子育てシェア@岩手支部：5名 参加者：7名（ママ6名+パパ1名）

[内容及び所感]

【概要】
・「きたかみ子育てネット」の呼びかけにより市内の子育て中のパパ・ママと、子育てについての意見交換を行った。
・AsMama 子育てシェア@岩手支部の方々に頼って託児を行い、子ども連れでの参加も可能とし、出入り自由の車座式で実施。お話は、単独であったり、複数人であったり、子ども達の喧騒が聞こえる中で楽しくワイワイがやがやと行った。
【概要】
(1) 要望事項
①日曜祝日保育が出来ないか。
・交代勤務の企業が多いので日曜・祝日の勤務の場合もあり、その際に預かってくれる施設があると良い。昨年まではひたかみ保育所で実施していたので利用していた。現在は、仙台の実家から72歳の父に来てもらって子どもの面倒を見てもらっている。また、年末年始も預かってもらえると良い。
・一関市では、休日当番医のような形で、保育所や保育園で当番制で実施しているらしいので、同様な仕組みで実施できないか。
②病児保育を実施して欲しい。

・病後児保育はあるが、保育園で熱が出て風邪をひいたような場合、結局自分が休みを取って保育園に迎えに行き、病院に行き、場合によっては2、3日は自宅で診なければならない。病後児より病気になっている間の方がニーズが高い。

→議員から：市の「第2期北上市子ども・子育て支援事業計画」では、令和6年度までの事業量見込みとして「病児1ヶ所」とあるので、設置する意思はあるようだ。

→子育てネットから：市は民間で実施する方が居れば支援するという姿勢の様であり、今回、[クラウドファンディングにより、バス移動型病児保育を計画](#)した。今後、医師・看護師の確保や運営費などにおいて行政のサポートが欲しい。

③昨年度の最低入園点数を保育園毎に公表して欲しい。

・保育園への入園を希望するとき、保育の必要性を数値化した点数が行政から示され、その点数が高い（保育の必要性が高い）家庭から希望する園への優先される仕組みとなっている為、自営業だと点数が低く出され、自宅から近い園を希望しても優先度が低いため入園できない。第5希望まで記入できるが、昨年度の園毎に入園された方の中で一番低い点数が分かれば、自宅からの距離など考えて入れそうな園を選択できる。教えて欲しいと市に聞いたら、個人情報公開となるので教えられないと言われた。

・横川目や口内などは空いていると言われるが、仕事の都合上、そこまで送迎はできない。

→議員から：点数によりその様な差があるとは気が付いていなかった。姉妹都市の流山市では、送迎補助として駅に子ども達を集めてそこからそれぞれの保育園に送迎する仕組みがあるので、当市においても新しい子育て支援施設を中心とした新たな保育支援の構築が必要かもしれない。

【参考】保育園の入園のための指数

①基準指数：保護者の就労状況や健康状態などの基本情報を計算し、点数化したものを基準指数という。フルタイムや短時間など就労日数や時間や、保護者自身の病気や障害、家族の介護などの状況がそれぞれ点数化される。自治体によっては、基準指数表をホームページなどで公開している。

②調整指数：調整指数とは、家庭の状況にあわせて加点や減点の調整をする点数をさす。基準指数が同じ家庭が複数あった場合には、保育の必要性がより高いと判断する目安のひとつになる。入園を希望する保育園に兄弟が在園していることや、ひとり親家庭であることは加点の対象となる場合もある。また、減点の対象となる項目の例としては、65歳以下の祖父母と同居をしていることなどがある。

③選考指数＝基準指数（父）＋基準指数（母）＋調整指数

保育園入園の選考指数は、両親それぞれの基準指数と調整指数を合算したもの。選考点数が高い家庭から、優先的に希望する保育園に入園できるとされている。

④多子割引の改善をお願いしたい。

・3歳未満の兄弟が保育園に入園する際に、第二子・第三子の割引があるのは良いが、年齢が離れていると適用されない。離れていけば手が掛からなくなるからという事なのかもしれないが、子どもを続けて作らないと子育てできないような仕組みとなっているので改善できないか。

⑤医療費の所得制限を撤廃して欲しい。

・北上市には他市から転勤により引っ越してきたが、医療費に所得制限があるのでびっくりした。今まで数か所の都市を引越してきたが初めてである。多くの転勤族の方々も同様な意見である。

→他のママ：全て無料にすると全体の医療費が増えるのではないか。むしろ、所得制限はあっても良いのではないか。それより、予防面に費用を割くべきでは。

(2) その他の意見等

・AsMama アプリを利用して「子育てシェア」活動を行っている。これは、(株)AsMamaが開発したアプリが「支援を必要としている人と支援したい人や事業者を繋ぐ場や仕組み」でありこれを利用している。北上市にもファミリーサポートセンターで類似の仕組みがあるが、手続きが煩雑であり、この仕組みと両方並行して実施することによりよりきめ細やかな子育て支援体制が構築できると思う。奈良県生駒市や奈良県三宅町では行政と(株)AsMamaが協定を締結したりして取り組んでいる。

【参考】(株)AsMamaの事業



<ul style="list-style-type: none"> ・子どものランドセルの重さが大変そうである。ランドセルそのものもだが、教科書やドリルなど持ち物が多い。道徳の教科書などは希望すると学校に置いておけるようだ。
<p>→GIGA スクール構想によりタブレット or パソコンが一人1台になると解消されるか？</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・GAGA スクールによる端末についても、子どもが使えるのか不安がある。
<p>→教員の方が使えるのか心配される。特に自治体毎に端末機が異なる場合もあり、移動による教員負担も増えるかもしれない。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・小1の際に、持ち物や個人支給の教材に細かく名前シールを貼る作業が大変。
<ul style="list-style-type: none"> ・算数の筆算の際に、定規を使って合計線を引かせる指導はおかしいのでは。
<p>→ネット情報：筆算の線を引くのに定規を使うことは、教育現場では「一般的」という。定規を使っていなくても、テストで減点することはないが、指導を徹底している3、4年生の宿題などでは「指導対象」となるという。</p>
<p>定規を使うと、位（くらい）がそろって計算間違いが減るのだという。なぜ、横の線を引くと、縦の位がそろうのか。「理由はわかりませんが、きれいに書こうという意識が強まり、適当さが減るからではないでしょうか」という意見もある。「エビデンス（根拠）があるわけではなく、経験則でしかないのですが、だいたい2割ぐらいの子がこれで計算ミスが減り、点数が伸びる」そうだ。</p>
<p>また、「高学年になるまでは、まっすぐ線を引くのが簡単にできる子とできない子がいる」点と、「集団で過ごす中で、特定の子だけ定規を使わせる、使わなくてもよい、といった指示は現実的ではない」という事もあるようだ。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・給食費は食材費だけと言う事だが、無料になると良い。または多子割引ができないか。
<p>(3) その他の意見等（新型コロナ関係）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で学習発表会が無かった。コロナの影響とは言え最終学年だったので残念。
<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行への参加誓約書みたいなものがあり。新型コロナに感染したら迎えに来られるかとか、費用負担の説明もないままタクシーを利用しても良いかなどがあったが少し変ではないか。説明を求める記載をしたが返事も無かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを公園に連れて行ったら、こんな時期に連れ出すなど言われた。
<ul style="list-style-type: none"> ・函館の大学に子どもが行っているが。このご時世なので帰ってこれない。
<p>→近所では東京の大学に行っている子でも帰ってきているようだ。ただ、帰ってきてても外出はしていないようだ。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・市の子育て給付金が5月までしか遡って申請できないが、国のように4月まで遡れないのか。旦那の給与が減って大変である。

【所感】
□梅木 忍
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、議会広聴が機能できずにいるが、会派の活動として貴重な機会だった。 ・参加者は、ただ要望を言うだけに留まらず、そんじょそこの議員よりも様々な事例等・情報等を調査研究されていて意識の高さをうかがい知ることができた。 ・議会モニターやつなぐ会でも託児を行えば、ママさんたちが参加しやすくなるのではないか。 ・予測困難な時代、目まぐるしく変わる社会情勢や多様性など公と私の役割分担はもはや流動化している。これまでは行政が決めたことに、仕方なくひたすら従うという形だった。行政ができないなら、コミュニティが自分たちで子育てしやすいよう行動していくというベクトルに時代は変わっていくのかもしれない。自分の議員活動がその一助になればと思う。
□三宅 靖
<ul style="list-style-type: none"> ・参加者は思ったより多くはなかったが、それでも多様な意見が聞けて、大変勉強になった。 ・特に、他市から転勤等でこられた方は以前の自治体と比較されており、北上市が子育て面できかに遅れているか痛感させられた。 ・市民との意見交換は、今回の様に少人数で井戸端会議的に実施した方が、詳しく情報が得られる。会議室のワークショップ形式より、場合によっては効果的であると感じた。 ・今回は特に子連れで参加できたことによって、ママさん達も安心して参加でき、本音で話が出来たのではないかと思う。
□平野明紀
<ul style="list-style-type: none"> ・このような場に訪れる方たちは、熱いものを持っていて、切れ間なく続く思い、市政に対する要望に圧倒されそうであった。私自身、配偶者が単身赴任のためひとりでファミリーサポートセンターのお世話になりながら子育てした経験もあり、その厳しさや医療費給付における所得制限は身近な問題であったが、当時は、ここまで積極的に変えていこうという活動はなかった。全国の先進自治体で待機児童解消や保育料負担の軽減、病児保育、医療費の無償化などが進み、情報化の進展によって、そうした情報が同じ悩みを抱える親たちで共有されるようになったことが大きいと感じた。もはや、やるかやらないかではなく、「いつやるか」の段階なのだと思う。 ・県内で、父親の子育て参加を進める活動に取り組まれている男性の参加があり、仕事を続けながら子育てするための環境づくりは、パパも一緒に参加することが大事だと感じた。 ・話されていた現状、課題は、議会内でも多くの議員から共感が得られる内容であり、一般質問ばかりでなく、常任委員会の調査事項としても取り組んでいく必要がある。